

第11回 (仮称) 市民センター建設市民懇談会 会議録

- 1 日 時 令和4年8月26日(金曜日) 14:00~15:30
- 2 場 所 福島市役所本庁舎4階 庁議室兼防災対策室
- 3 出席者 山口哲子会長、牧田実副会長、佐藤玲子委員、菅野廣男委員、引地洲夫委員、阿部一善委員、阿部隆夫委員、佐藤祀男委員、阿部國治委員、原田紀之委員、木暮照正委員、霞朝子委員、阿部勢津子委員
- 4 内 容
  - (1) 開会
  - (2) 議事
  - (3) その他
  - (4) 閉会
- 5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答・意見交換
- 6 委員の主な発言

議題1 (仮称) 市民センターにおける運営の主体について

○委 員

過去に公民館から学習センターに変わって、生涯学習を推進する国としての形ができ上がり、それに従って市も生涯学習を進めてきた中で、その流れは変えてはいけないと考えている。今まで中央学習センターが担ってきた役割、使命に対し、大きな配慮が必要であるし、今ほど事務局から説明があったように、中央学習センターが運営の主体となる方向性が基本だと考える。

○委 員

資料を拝見し、それぞれ今日までの懇談会の経過等について、きちんとまとまっていると感じた。とりわけ7ページにあるとおり、中央学習センターの運営に関する各教育機関の意見等についても、その通りだと思っている。本市は合併を繰り返してできた都市であり、それぞれの地区の歴史や経過、特徴があり、そうした点も踏まえて各地区に学習センターがある。高齢化が進んでいる中で、学習センターの役割は非常に大事だと思っており、そうした点も踏まえ、直営で運営していただくことについて、良かったと私は思っている。

併せて、中央学習センターの位置づけとして、各地区学習センターへの指導体制が一番重要と考えており、今後しっかりと取り組んでいただきたい。

○委 員

中央学習センターの重要性、生涯学習の重要性は私も認識しているが、資料を見ると中央学習センターが前面に出過ぎていると感じた。他の地区館の指導的役割はあるものの、市民センターはもっと幅の広い施設であり、私としては中央学習センターが前面に出すぎることはあまり良くないと考える。

○委員

前委員の意見に関し、地域の住民に対する配慮なども必要と考えるが、そのあたりをどのように考えるのか、各町内会長も委員となっているので意見を伺えばよいのではないか。

○委員

第15項アオーレ長岡と秋田市市民サービスセンターとの比較の表が出ており、私はどちらの施設も訪れているが、特徴的なこととして、アオーレ長岡は長岡花火の観光セールスの場があったり、秋田市も大手のコンビニが入っていたりしていた。福島市役所は昔ながらの売店があり、それぞれの施設がそれぞれ特徴を持っており、違う部分もあると感じている。(仮称)市民センターについても、当初は中央学習センターが前面に出るような形で運営しながら、市民の皆さんの「一緒に何かをつくり出していくという気運」がもう少し高まったときには、様々な方法を検討する時も来るのかなと思うが、当初のスタート時点では、中央学習センターの直営が良いという印象を持った。

○委員

最後のその他で発言しようと思っていたが、秋田市役所は秋田杉などをふんだんに使った秋田らしさ、長岡も長岡らしさを感じられる施設である。(仮称)市民センターは、機能性などは十分に考えられているが、「福島らしさ」があまり感じられない。

○委員

(仮称)市民センターに関しては、学習センターの中身がかなり大きくて、貸館の方が、そこで何か独自の事業・企画に取り組むような余地が、今のところ少なそうだということで、民間が入ることにあまりメリットがない、むしろデメリットが多いという判断だろうと思うので、それはそういうことなのかなと思っている。ただ、市民あるいは民間の目でモニタリングというか、運営協議会のようなものは別途組織されると思うが、そちらの方で、常時市民の声が反映されるような体制をきちっと組んでいただきたいと思う。

○委員

私は、市の提案に関して賛同している。現実的に、最初運営に関しては中央学習センターさんに頑張ってもらうしかないと思っている。私としては学習センターの機能はぜひ直営でやっていただきたいと思っているが、貸館業務に関しては、直営でなくできるのであれば、担ってもいいと思うが、スケールメリットがないので現実的でないという判断をされているのだと思うし、私もその通りだと思う。ただ、本来の中央学習センターの機能である社会教育、生涯学習の機能、これはまだ直営でやらないといけない。福島市の学習センターの体制を考えると、地区学習センターの上に中央学習センターがあるため、いきなり直営でないやり方を行うのは非常にリスクが高い。社会教育委員の会議でもそ

のような議論であった。まずは直営で施設を立ち上げ、市民センターとして運営を行っていく中で、何かしら市民との共創あるいは民間活力が活用できるというような余地が出てくれば検討する方向で良いと思う。

○委員

前回から共創という言葉が話題となっているが、学習センターの事業内容を見ると、基本として地域の皆様とコミュニケーションを取ることから始まっており、共創という言葉は、すでに学習センターで十分行われている視点だと感じている。中央学習センターは、十分に市民の声が届くと感じており、他の委員からもあるとおり、最初は学習センターが直営で行い、課題を見つけながら広げていくのも一つの方法ではないか。

○委員

基本的には、施設を誰が利用するかに尽きると思う。この施設は、近隣の町会、中央東地区、学習センターの利用団体、等々が利用する施設であり、そういった方々が利用しやすい、受け入れやすい施設であるかどうかと思う。

○委員

学習センターの参加者、利用者の最近の傾向、利用者数の増減などが分かれば、教えていただきたい。

○委員

私も 20 年以上学習センターにお世話になっているが、事業の内容的には素晴らしいと感じている。施設の老朽化や、エレベーターがないこと、雨漏りなどもあり、このところ団体利用数は少なくなっているが、多いときは 180 ぐらいの登録団体数がある。

また、学習センターの事業として、1 ヶ月に 30 回、1 日に 1 回以上の事業を行っており、職員にとってはこれが大変な業務だと思うが、よくやってくれていると感じている。利用者数としては、老朽化が原因で、近年利用数が少なくなっている。

○委員

利用者が少なくなってきた理由は、単に老朽化だけでなく、他に何かあるような気がするが、いかがか。

○事務局

現在の学習センターは、登録団体は 158 団体ほど。地域の町会の方、老人会の方などの利用もあり、また全市的な機能があるため、例えば市全体の老人クラブの方の利用など、中央地区の方々、全市的な方々と、毎日たくさんの方に利用されている。

ただ、ここ最近はコロナウイルスの影響により、定員の半分に利用を制限したり、利用停止した期間があったりなど、利用者は減少している。コロナが徐々に

落ち着いて、施設も新しくなれば、さらに利用が増えて活性化するのではないかと感じている。

○委員

渡利学習センターに関しては、建て替え前の登録団体は34団体だったものが、現在は68団体と、2倍になった。エレベーターの設置や、使いやすい機の整備なども理由。施設が新しくなれば、他の地区の団体も含めて、利用団体が増えることが予想される。

また、別な問題として、地域が高齢化していくにつれ、団体の役員の担い手がいなくなって消滅してしまう事が挙げられる。町会も同様だと思うが、後継者育成が非常に重要。そのためには、学習センターに目を向けてもらい、講演会や事業なども行いながら、地域住民をいかに学習センターに誘導するか、これが一番だと思うので、各地区学習センターの運営委員会も含め、ぜひ努力してほしい。

○委員

中央学習センターに関しては、エレベーターがなく、階段も急であるため、施設としては大変不便であると感じている。高齢で足腰の弱い方は、施設の3階は利用できない状況。また、中央地区については全体的に集会所があまりないため、市民センターの利用に関しては大変期待しているところ。また、以前要望したが、集会所としての利用を想定し、施設内での飲食・飲酒についても是非検討してほしい。

○委員

中央学習センターの階段に関しては非常に危険で、以前に怪我人が出たこともある。また、中央地区は集会所が少ないため、中央地区町内会連合会としても、市民センターには大いに期待している。

○委員

中央地区以外に住んでいるが、いつも中央学習センターを利用している。今の中央学習センターは、確かに老朽化で使いにくく、駐車場も狭くて不便だが、とても親しみやすい、顔が見える、そういうところから非常に使いやすいと感じる。新しい市民センターに非常に期待している一方で、新しくなればまた人材の登用もされるし、職員と利用者とのコミュニケーションがうまくできるのか、広くて綺麗で新しい半面、逆に広すぎて使いにくいのではないかなど、不安もある。利用者と職員の距離感、親しみやすさなどは中央学習センターの良さだと思う。

○委員

今委員の皆さんの意見を聴き、学習センターの動向についてはよく理解できた。さらなる活性化を望んでいる。

○委員

敬老センターを年 10～15 回ほど利用してきたが、(仮称)市民センターに機能が移る際に、これまでの敬老センターの機能がそのまま移るという期待を持っている。そういった機能が失われることを最も心配しており、飲食・飲酒のできるスペースを作っていただきたいという事は、要望として申し上げたい。

○委員

人口動態から見ると、2040 年ぐらいまで、元気な先輩方が増えていくという流れでもあるため、今後 20 年はそういった部分を中心とした体制で取り組むべきと思うが、一方で危惧するのが、その後どのように利用の仕方が変化してくるのかというところを検討すべきではないかと、私たちの年代としては考えなければいけないと思っている。

○委員

現在、市民会館を恒常的に使っている団体はどのくらいあるのか教えてほしい。

○事務局

登録制度が無いため団体の数は不明だが、令和 3 年度の利用件数については、敬老センターも含め、午前、午後、夜間を合わせて 1 万 2088 件。

○委員

そうした利用者の意見を反映していく方法をどのように考えているのか。

○事務局

市民会館は登録制度がないため、どのように意見を集約していくかはこれまで検討してきたところだが、新しい施設の使い方や備品に関し、今後利用者の方から使用の際にアンケートを取るなどの方法も検討している。なお、具体的な時期や内容等は現時点でお示しすることは難しい。

○委員

市民会館も含め、現在の施設の利用者に対し、施設を廃止することについてどのように、どの程度周知しているのか伺いたい。

○事務局

市民センターを建設することに関しては広く周知しているところだが、ご指摘の通り市民会館の閉館をする事に関してはなかなかストレートには周知できていない状況のため、ご意見としてお伺いし、広く周知をする方法や利用者の意見をいかに拾い上げていくかなどについては、今後検討していきたいと考えている。

○事務局

中央学習センターでは、基本設計、実施設計の各段階において、利用団体連絡協議会などでアンケート調査を実施し、意見集約を行っている。今後は、使い方の部分について検討をしていくこととなるため、事務局内で協議しながら、使いやすい施設になるように努めてまいる。

○委員

市民会館や敬老センターについては、福島市老人クラブでは盛んに利用しているため、クラブ内で(仮称)市民センターへの機能移転や閉館等について十分に共有している。市民センターへは大いに期待しているところである。

○委員

市民会館については、民間企業等も利用していると聞いている。そうした利用者等への周知が十分に行われていないのではないかとと思うが、如何か。

○事務局

具体的な、そういった細かな説明は実施していないのが現状。ただ、具体的な廃止時期などの詳細が決定次第、受け付けの段階や張り紙などにおいて、利用者に広く広報していく予定のため、ご了解いただきたい。

○委員

市民会館については貸館なので、市民や民間の利用団体にとっては、開館日や開館時間の問題と、いつ閉館になるのかということではないかと思うので、詳細が決まれば周知徹底できるのではないか。

また、話を聞いていて感じたのは、周辺町会、とりわけ市民会館を利用する周辺町会で団体を組織したほうが良いのではないかと感じた。

○事務局

今日は、慎重なる議論に感謝申し上げます。ここまでの委員のご意見を伺い、今後の考え、進め方の方向性をお示しさせていただきたい。

まずは何よりもこの市民センターが、市民誰もが利用しやすい施設にするというのが我々の一番の本分であり、そのためには、これまでの利用者の方々の声を様々な角度からお伺いし、今後の使い方、運営の方法について反映させていきたいと思っている。その際には、もちろん地域住民、中央東地区の方々に十分な配慮をもって、取り組んでいきたいと考えているが、どのような管理のあり方や運営の仕方が、市民全体の利益にかなうのかということが一番の主眼にとらえて、判断していきたい。

また、市民会館の閉館については、まだ知らない団体の方もいると思っている。企業などの方々も、例えば採用試験など、様々な形で施設を使っていたため、そうした方々への周知が行き届いてないかと思う。これまでなかなか周知できなかった理由として、この市民センター建設の受注事業者が、現在

入札手続き中で決定していないという事も挙げられる。工期は令和6年12月としているが、今後事業者が決まって、完成時期が明確になれば、いつから使えないかをはっきり示せるが、そこがまだぶれているので、おおよそ令和7年春から使用できない、などの表現でも、まずは周知を始めていきたいと考えている。公用車駐車場も移転し、敷地内もかなり広々としてきた。今後、市民会館・中央学習センター・敬老センターの利用者の方々にも、十分周知していきたいと考えており、こうした事も併せて引き続き取り組んでいくので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

議題2 (仮称)市民センター整備にともなう課題

議題3 今後の予定

○委員

先ほど委員から発言があった「福島市らしい」建物に関して、アオーレ長岡は、隈研吾氏が設計しているが、既存の建物の建材(板など)を再利用して、かつての建物の名残を残したりする設計的工夫がされている。秋田市役所は、もちろん有名な秋田杉を使っていて、それぞれに特色を出している。(仮称)市民センターに関しては、外構に福島市の四季の彩りを利用するなどとは伺っているが、すでに入札を行っている現段階でさらに何か付け加えることは難しいと思うが、例えば市内で採れた木を使って、ベンチを作って置くとか、何かそういう形での福島らしさを出せる余地があると期待している。重いと高齢の方が使いづらかったりするが、人待ちがいそうな場所に、例えば桃のマークをカッティングしたベンチを置くなど、適材適所で利用すれば、福島らしさが出るのではないか。そうしたものが、市民からの寄付であったり、市民の方が造るであったり、そんな風になっていったらいいなと思う。

○委員

名誉市民である古関裕而氏に関連する何かがあって然るべきではないかと思う。

○委員

本庁舎の玄関先は、もう少し工夫があれば、もっと福島市の特徴を出せて、活用できたのではないかと思うが、先ほど委員がおっしゃったように古関裕而や花見山、競馬場などと絡めた、福島の特徴をとらえたような何かを検討してほしい。

○委員

福島らしさといえば、様々な観光資源や信夫山、吾妻山、阿武隈川など、そういったものを含めた福島らしさを出していただければと思う。

— 以上 —